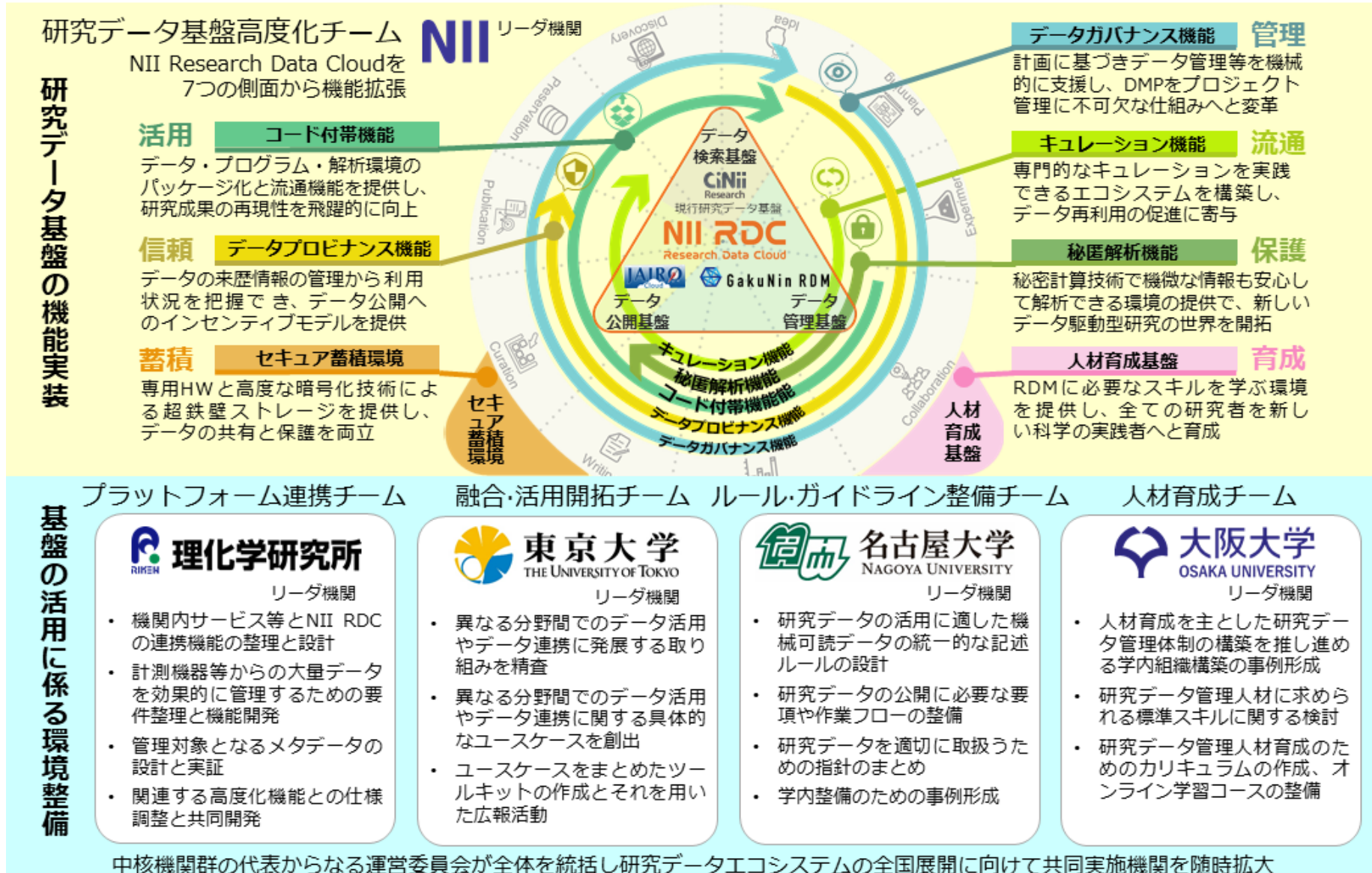


<p>中核機関名 総括責任者名</p>	<p>大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所 喜連川優</p>
<p>共同実施機関名</p>	<p>理化学研究所、東京大学、名古屋大学、大阪大学</p>
<p>実施予定期間</p>	<p>令和4年度～令和8年度</p>
<p>目標・計画の概要</p>	<p>本事業では、「統合イノベーション戦略 2021」において、我が国の研究データ基盤システムの中核的プラットフォームとされている NII Research Data Cloud (NII RDC) を基軸として、その高度化と利用促進により研究データエコシステムの構築を目指す。研究 DX に資する機能を強化し、全国的に利用される基盤に成長させる。NII RDC の機能の高度化は、国立情報学研究所が担当する。研究データの管理・蓄積・利活用・流通を実践するために必要となる機能を、信頼性・再利用性・秘匿性の側面も考慮した上で実装する。</p> <p>基盤の普及を急速かつ持続的に発展させる方策としては、他のプラットフォームとの連携、ユースケースの創出、ルールやガイドライン整備、人材育成に関する 4 つの課題を設定する。共同実施機関が各課題のリーダーを担当すると同時に、相互に連携する体制を構築することで事業の効率化をはかる。共同実施機関は、事業中にも必要に応じて適宜拡大し、将来的な全国展開に向けての汎用的な機能提供や仕組み作りを実現する。各課題の進捗は、各機関の代表者から構成される運営委員会で共有される。運営委員会は、計画の審議や成果の確認のみならず、工程管理支援や広報活動支援などを含んだ事業全体をマネジメントする組織として機能する。</p>
<p>取組の概要</p>	<p>研究 DX に向けて NII RDC を高度化する具体策として、現状の管理・公開・検索基盤に対し、データガバナンス、データプロビナンス、コード付帯、秘匿解析、キュレーションに関する機能を開発する。これらをシームレスな基盤間連携にも活用できるように実装する。こうした基盤への安心・安全なデータ保全を実現するために、最先端の暗号化技術を用いた秘匿強度の高いデータの蓄積・管理環境を新たに研究開発する。本事業で構築する新しいデータを活用した研究環境を有効利用するためには、利用者や支援者のリテラシーの向上も同時に必要となる。研究データ管理のために必要な知識やスキルを効果的に獲得できる人材育成基盤も構築する。</p> <p>研究データエコシステム構築の一環として、理化学研究所がリードするプラットフォーム連携の課題では、オープンサイエンスが浸透している分野の基盤を対象に、NII RDC との効率的な連携機能を構築し、複数分野へと適用範囲を拡大する。東京大学がリードするユースケース創出の課題では、分野間でのデータ連携を前提とした AI やデータ駆動型研究などを含んだ複数のシーズ・ユースケースを確立していく。名古屋大学がリードするルールやガイドライン整備の課題では、機関におけるデータポリシーに基づくデータの取り扱いの基準を定め、関係する外部コミュニティと連携しながら全国展開を狙う。大阪大学がリードする人材育成の課題では、組織内の研究データ管理のための人材育成や支援体制のベストプラクティスを構築するとともに、必要となるスキル獲得の実践を示していく。こうした取り組みの集合体として、運営委員会が中心となって、将来的にさらに大きなビジョンも兼ね備えた研究データエコシステムを具現化していく。</p>

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業



研究データ基盤の機能実装

基盤の活用に係る環境整備